

1984年出土の木簡

(2)が室町時代の土壌、(3)は鎌倉時代の包含層で、(4)は河川の木組護岸の杭に転用されていた。

8 木簡の釈文・内容

200×24×3 011

(2) 「ぬま志り／＼」

(3)

(4)
為父紀未年

1

135×55×11 065

(605) x 104 x 16 061

なお、木簡の釈読については、国立歴史民俗博物館の田中稔氏・

9 関係文献

神奈川県立埋蔵文化財センター『年報4』(一九八五年)

(服部実喜)

神奈川・蔵屋敷遺跡

- | | | |
|---|---------------|---------------------|
| 1 | 所在地 | 神奈川県鎌倉市小町 |
| 2 | 調査期間 | 一九八二年（昭57）八月～一二月 |
| 3 | 発掘機関 | 鎌倉駅舎改築にかかる遺跡調査会 |
| 4 | 調査担当者 | 小川裕久・服部実喜・玉林美男・永井正憲 |
| 5 | 遺跡の種類 | 居館跡 |
| 6 | 遺跡の年代 | 古墳時代前期～室町時代 |
| 7 | 遺跡及び木簡出土遺構の概要 | |

蔵屋敷遺跡は、国鉄鎌倉駅構内に所在し、鎌倉市市街地のほぼ中央に位置する。若宮大路と今小路にはさまれた本遺跡の周辺では、

一九七五年前後より市街地の再開発が進められ、これまで多くの中世遺跡が発掘調査されている。

(横須賀)

つて実施された。調査の結果、奈良時代の溝状遺構や鎌倉時代から室町時代の掘

本遺跡の発掘調査は、国

鉄鎌倉駅舎の改築工事に伴

鉄鎌倉駅舎の改築工事に伴

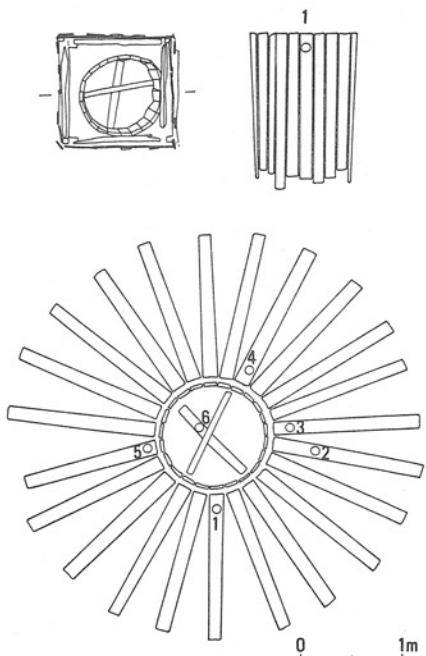
鉄鎌倉駅舎の改築工事に伴

鉄鎌倉駅舎の改築工事に伴

鉄鎌倉駅舎の改築工事に伴

頭に位置づけられる「号井戸」の木枠下より墨書き押をもつ徑約○・八m、長さ約一・一mの木桶が出土した。花押は、桶の外面に五ヶ所、内側の支え木に一ヶ所書かれている(1~6)。

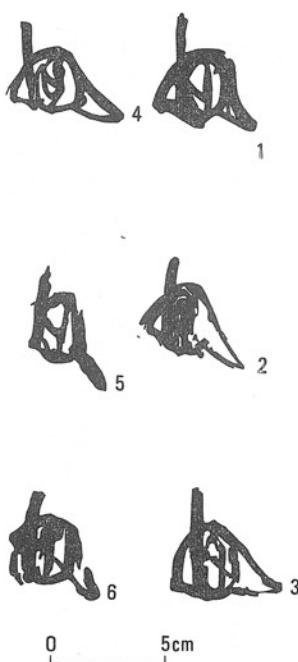
8 木簡の釈文・内容



9 関係文献

鎌倉駅舎改築にかかる遺跡調査会『藏屋敷遺跡』(一九八四年)

- (1) □ 玉馬馬〔件カ〕
(265) × (24) × 5 065
 - ・「千〔代カ〕」
(穿孔)
 - ・「□ ○ □」
- 242 × (25) × 4 065



立柱建物二棟・溝三条・井戸一一基・土壙五一基・小ピット一五九基が検出され、また古墳時代前期から室町時代にかけての遺物が多数出土した。木筒は、一三世紀後半から一四世紀前半に位置づけられる遺物包含層より出土した。また、一四世紀後半から一五世紀初

